|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 事務局利用欄 | 整理番号 |  |
| 受付月日 |  |

2020年　　月　　日

提出先：一般社団法人中部圏地域創造ファンド　あて

**2020年度東海ろうきん「NPO育成助成」（C 組織強化部門）助成申請書**

本申請書類および添付資料に記載されている事項は、助成金の支給対象の選考等、当事業の運営に必要な範囲で、本財団法人、東海労働金庫および関係機関が取得･利用すること、また、給付が決定した場合は、団体名、個人名、事業内容等の情報が一般に公開されることに同意の上、応募します。

1. **申請団体、連絡先**【様式1】

|  |  |
| --- | --- |
|  |  |
| 団体種別該当箇所に○印 | ＮＰＯ法人【所轄庁：愛知県　・岐阜県　・三重県　・名古屋市】任意団体・その他法人（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
|  | 〔役職〕　　　　　　　　　〔氏名〕　　　　　　　　　　　　　 |
| 団体所在地・通知先 | 〒 |
| 電話 | (　　　) | FAX | (　　　) |
| E-mail |  | ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ | http:// |
|  | 〔役職〕　　　　　　　　　〔氏名〕　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 |
| 担当者連絡先(昼間連絡可能な先) | 携帯電話 | (　　　) | FAX | (　　　) |
| E-mail |  |
| 東海労働金庫の口座 | 　　　　有　　　・　　　無　　　　　　　（〇をつける） |
| 金融機関からの融資 | 　　　　有　　　・　　　無　　　　　　　（〇をつける） |

1. **申請団体の状況**

|  |  |
| --- | --- |
| 定款・規約上の活動目的 |  |
| 設立年月 | 　（１）法人の場合（ＮＰＯ法人等）法人登記の日：　　　　　　　　　　年　　　　月　　　　日（２）法人格を有しない場合（任意団体等）　　　定款、会則又は規約を最初に定めた日：　　　　　　　　　　年　　　　月　　　　日 |
| 団体の規模 |  | 最新の決算 | 当年度予算 |
| 会費 |  |  |
| 寄付金 |  |  |
| 助成金 |  |  |
| 事業費 |  |  |
| 収入合計 |  |  |
| 会員数 |  |  |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| スタッフ・会員数 | 常勤職員 | 名 | 会員数　　　　　　　　名　（内訳） |
| 非常勤職員 | 名 |
| ボランティア | 名 |
| 合計 | 名 |

1. **東海労働金庫からこれまでに受けた助成事業**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **助成年度** | **事業名** | **助成金額（円）** |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

1. **事業実績**

今回申請している取り組みに関連する過去5年間の事業実績について、箇条書きで簡潔に記入する。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **事業名** | **事業期間** | **事業予算（円）** | **事業内容** |
|  |  |  |  |

1. **事業概要**

【様式２】は公開対象なので、個人情報、掲載許可などに留意ください。２～４の各項目の記述欄の大きさは変更可能、ただし、1の事業概要から7の収支計画までで、計7ページ以内に収めること。

|  |  |
| --- | --- |
|  |  |
| 事業名 |  |
| 助成申請額 | 万円（上限100万円） |
| 活動期間（2020年6月～2021年2月の範囲） | 　　年　　月 ～ 　　　　年　　月  |
| 助成活動の要約（500文字以内） |  |

1. **団体組織の課題**

貴団体が目指している組織の姿（組織のビジョン）について記述する。

|  |
| --- |
|  |

貴団体が抱えている組織上（人材、規模・意思決定・資金等）の課題およびその背景・原因について、優先的に対応していきたい順に、最大5つまで記述する。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **優先順位** | **課題** | **背景・原因** |
| 1 |  |  |
| 2 |  |  |
| 3 |  |  |
| 4 |  |  |
| 5 |  |  |

1. **助成事業の目的**

今回の助成事業を通じて、団体をどのような状態にしたいのか、できるだけ具体的に記述する。

|  |
| --- |
|  |

1. **助成事業の内容**

現状分析や事業目的等を踏まえ、この助成金をどのように活用するのか、具体的な事業内容を記述する。外部専門家を活用する場合は、活用の意図について、また、内部の理事などを活用する場合についてもその意図を記述する。

|  |
| --- |
| * 事業内容

　※記述の際は、以下の注意事項を削除【注意事項】・取り組みをどのように実施するのか、分かりやすく記述・「いつ、どこで、なにを、誰に、どのくらい、どのように」事業を展開するのかについて、下記を参照し、必要な項目を加えて箇条書きに記述〇組織診断を行う場合・診断対象、事項、内容・診断者と診断方法・診断結果の反映方法〇講座・研修等を行う場合・講座・研修の内容等（講師名等も含む）・対象者、参加者数・開催時期、開催場所〇情報誌、報告書等を作成する場合・情報誌、報告書等の内容、配布時期、配布先および配布部数〇備品を購入する場合・備品名、使用目的、用途、使用頻度、数量、金額など〇共通・協力機関、団体・実施者・事業の特徴※2年目の申請を計画されている場合は、2年目の成果についても記述 |

1. **事業スケジュール**

2020年6月1日～2021年2月末日までの予定を記入。

|  |  |
| --- | --- |
| **月　　　日** | **事業項目** |
|  |  |

1. **事業の成果**
* 事業目標（アウトプット）と、事業目標が達成されることにより得られる事業成果（アウトカム）を記述し、事業効果については可能な限り数値等の定量的な指標を記入する。
* 2年目の申請を計画している場合は、その見込まれる事業目標および成果についても記述する。

|  |  |
| --- | --- |
| **事業内容** | **事業目標（アウトプット）および事業効果（アウトカム）** |
|  |  |

1. **助成事業の収支計画**

**(1)支出の部**

助成申請額（上限１００万円）の支出予算を記入する。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **事業費項目** | **事****事業費（円）** | **事業費の内訳****※ 人数、単価、数量、回数等の明細を記入** |
| 1. 物品・資材購入費
 |  |  |
| 1. 業務委託費
 |  |  |
| 1. 講師謝金・研修費
 |  |  |
| 1. 印刷製本費
 |  |  |
| 1. 旅費交通費

　　　 |  |  |
| 1. 通信費
 |  |  |
| 1. 事務・消耗品費
 |  |  |
| 1. 機材・施設等賃借料
 |  |  |
| 1. 人件費
 |  |  |
| 1. 雑費
 |  |  |
| **事業費合計** | **Ａ** | **A=B** |

※1点当たり10万円以上の物品・資材購入費、業務委託費、機材施設等賃借料には見積書の添付が必要。

**（2）収入の部**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **項　目** | **金　額（円）** | **内訳・計算根拠** |
| 1. 東海ろうきん助成金
 | **Ｂ** | Ａの万円未満を切り捨て、上限100万円※【様式2】の助成申請額と一致していること |
| 1. 他の助成金
 |  | 他の助成金等の名称・金額（申請中含む） |
| 1. 本事業の事業収入（見込）
 |  | 参加費収入、売上等 |
| 1. その他の収入
 |  | 自己資金、寄付金等 |
| **総収入（合計）** |  |

**■提出物チェック表**

このページも申請書とともに提出する。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **書類名** | **部数** | **申請者****チェック欄** | **事務局****チェック欄** |
| 1. 2020年度東海ろうきんＮＰＯ育成助成・新規事業創出部門「助成申請書」
 | 1部 | □提出あり |  |
| 1. 団体・グループの定款、会則又は規約の写し
 | 1部 | □提出あり |  |
| 1. 直近の事業年度の計算書類（決算書）

添付できない場合はその理由 | 1部 | □提出あり□活動開始後１年未満で決算期未到来のため添付なし　 |  |
| 4　見積書（＊1点当たり10万円以上の物品・資材購入費、業務委託費、機材施設等賃借料がある場合） | 1部 | □提出あり□該当なし |  |
| 5　提出物チェック表 | 1部 | □提出あり |  |

※　申請書により得た個人情報は、個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第57号）および本財団法人の個人情報保護規程に従って厳正に取り扱う。

　以　上